

第6回 あまくさ創生実践会議 会議録（概略版）

日 時	平成27年11月25日（水）13：30～16：40
場 所	天草宝島国際交流会館ポルト 3階 多目的ホール
出 席 者	別紙1「あまくさ創生実践会議 委員出欠表」のとおり
議 題	(1) 前回会議録の承認について (2) 人口ビジョン（素案）について (3) 総合戦略（素案）について (4) その他
資 料	≪事前配布資料≫ ・第6回あまくさ創生実践会議 次第 ・天草市まち・ひと・しごと創生「人口ビジョン」と「総合戦略」の全体像 ・人口ビジョン（素案） ・総合戦略（素案） ≪当日配布資料≫ ・第5回あまくさ創生実践会議 会議録（概略版） ・資料1： 実践会議での意見等 ・天草市産業連関報告書 ・高校生アンケート集計結果

議題（1）前回会議録の承認について

会 長： 第5回の議事録の承認について、事務局から説明をお願いします。

事務局：事務局より説明。修正等の必要があれば、事務局への報告をお願いしたい。

会 長：何かあれば事務局へ伝えてください。

※天草市産業連関表報告（ノンサーベイ・アプローチ）

議題2に入る前に、天草市産業連関表について、地方経済総合研究所の小田正部長から中間報告（資料「天草市産業連関報告書」参照）がなされた。

議題（2）人口ビジョン（素案）について

事務局：前回からの変更点及び資料1に基づき説明。

会 長：今回、2060年の総人口の目標が44,000人から50,000人に上方修正されているが、この観点を地域の皆さんとしてどう考えるか。確認させていただきたいと思う。社人研の推計では、2060年の天草市の総人口は33,051人という数値が出ているが、そのまま実現するのではなく、いろんな策を講じる戦略を作って、天草にとって理想の姿をつくらうということ。皆さんのご意見をいただきたい。

委員：出生数が今 500 人台というところで、見込まれる数値が出てきているが、その人口に持っていくまで、会議の中で話ができるのか。

事務局：人口ビジョンの P5 において、過去 5 年間以上において出生数は 600 人台をキープしており、2012 年は 500 人台に落ちているが、翌年はまた 600 人台に増えていることから、平成 31 年度までの 5 年間において 500 人台で推移することは可能であると考えている。

また、子育て支援についても、保育料の軽減や中学生までの医療費無料化など、サービスも充実させているところである。

委員：なぜ、毎年 600 人生まれるのか。子育てしやすいまちだからという理由が、納得いかない。現実性が見えなくて、理解できない。

事務局：実際、何人生まれるかは、分からない。しかし、本市においては出生率が 2008 年ごろに 1.78 から 1.85 に上昇している。この時期に小学校高学年の医療費無料や高校の授業料の無償化となっているが、直接的な要因であると結びつけることはできていない。

また、12 月に施政に関するアンケートの中で、結婚・出産・子育てについても一緒に対象世代にアンケートを取り、分析したいと考えている。

そして、この出生数は社人研推計であり、市としても不妊治療費の助成や婚活事業を実施して未婚率を下げることによって、目標数値の達成に向けて取り組んでいく。

委員：天草では移住施策は頑張っているが、総務省がやっている移住ナビに情報がないとか、取りこぼしがあると思う。しっかりとした情報発信をすれば、今の 2 倍、3 倍は難しくない。移住担当者のマンパワー不足で、止まっている感がある。もう少し強気でいいのかなと思う。

雇用については、雇用したい会社はたくさんあり、移住ナビでも仕事情報は登録できるので、仕事があるという情報を発信するだけで、違う状況になってくる。

あと、人口ビジョンのデータを見ながら、結局は何が言いたいのかわからない。データ一集なのか、シミュレーションの案を示すものなのか、書類自体の意図が理解できない。

会長：仕事と人の好循環というように、仕事があるからこそ人が動く。人がいるからこそ、仕事が生まれることになる。人口ビジョンについても、このままの公開でなく、何を示しているのかポイントをより明確化したものになるようお願いしたい。

また、大きな方向性として、総人口が 50,000 人、出生数も今の議論になったところで、社会増減にしても減少に歯止めをかけることを前提とした総合戦略の議論に入っていきます。ちなみに、GDP もここの分析として 1,200 億円と出ましたが、これもかなり頑張らなくてはいけない。はたして総合戦略で、それができるのか次回も検証していきたいと思う。

議題（3）総合戦略（素案）について

事務局：前回からの変更点及び資料 1 に基づき説明。

事務局：基本目標ごとに「目標数値」及び「具体的な施策と重要業績評価指標」について、ご検討をいただきたい。

会長：今日は、基本目標ごとに、これまでの意見を踏まえて変更してきたところを確認し、先ほど

の人口ビジョンで出生数、社会増減の転入・転出の数値が具体的に出てきますので、これが本当に実現できるのかについて議論していきたいと思います。

まずは、P1～6までのところで、全体的に何かご発言はありますか。

委員：(発言なし)

会長：それでは、内容に入りつつ、適宜意見を求め、進めてまいりたいと思います。

※基本目標ごとに協議

◆基本目標1：天草を支える産業の発展と安定した雇用を創出する

会長：基本目標の1から順番に協議してまいります、よろしいでしょうか。

先ほどの人口ビジョンで社会増減の部分の補足説明も含め、説明をお願いします。

事務局：基本目標1について、変更点やKPI指標等について説明。

会長：こういう具体的な数値が出てきたというところで、具体化していただいております。私から少し補足として全体像をご覧くださいと、これが地方創生のロジックをつくっているわけです。これは、左に向けて進めているものだということが分かります。今、数値を説明いただいたが、このロジックで本当にできるのか。この施策があっているのかということも、この会議体で考えたいと思います。何か、気になる観点、ご質問等ございませんか。

委員：P14に農業分野などの担い手確保の事業はあるが、これと同様なものが観光業や飲食業にも必要ではないか。設備投資等において、何か基金とかを創設して、いろんな産業に対する公的支援など、経営の投資方法、経営指導などの支援をすることで、担い手を確保する必要があるのではないか。

委員：担い手確保については、農業分野が国も含めて支援が充実しています。観光産業では、飲食店や宿泊業などの設備投資の際の利子分を助成する中小企業者への利子補給制度があり、産業政策課が担当部署となります。施設の耐震などの改修を対象として、旅館・ホテル業への利子補給制度もございます。

また、制度拡充についても、数年前に予算計上も含め検討しましたが、他の業種との兼ね合いなどの課題があり、実現できなかった。観光産業が地方創生に大きな効果があるということでございますので、他の産業との棲み分けとか整理ができれば、可能ではないか。他の自治体の取り組みなども調べて、参考にしたい。

委員：地元の人が、天草の良さに気付いていない。それを、意識していないことを感じる。天草自体の外向けの情報発信が、上手ではない。先ほど移住の話をしたが、移住については今の数倍のポテンシャルがある。天草の良さを、しっかり発信するPR部隊をつくる。それだけで、全ての施策がうまくいくのではないか。

また、関連してくるが、事業承継のモデルをつくる必要がある。経営者が自分の息子しか経営を託す選択肢しかなければ潰れていくので、M&Aを推進して経営譲渡していくなど、いろんなパターンがあれば、意欲ある人たちが天草に来るのではないか。

委員：観光を本気で推進しようというのであれば、観光に関係する店等を優遇する施策をとらなければ、平等性を求めているのは観光が伸びることはない。観光業に対する施策も必要なので、い

ろんな課題を調整して実施していただきたい。

委員：2060年の人口を50,000人にするということだが、資料に記載されている事業を見ると、既に取り組んでらっしゃる事業であると思う。これが、うまくいっても、目標を達成できるのか。抜本的に、何か新しい事業が必要ではないか。青年会議所が推進している高等教育機関として、本渡看護学校の増設、高看学科の創設、福祉学科の創設などを提案したい。

委員：市のビジョンは、どの範囲で天草市と言われているのか。市全体の施策があると分かりやすいが、まったく見えてこない

委員：教育を学校ばかりに任せるのではなく、地域もその役割を担い、将来若者が天草へ帰ってくるブーメランのような人材育成の取り組みも必要ではないか。

また、地域ごとの出生率とか、地域性の資料も示していただければ、創生のプランの中にも何か取り込んでいけるのではないか。

これから、私たちが目指すのは「人口構造の健全化」、これが一つのキーワードではないか。

これを踏まえ、施策をつくっていく。そして、移住・定住にしても仕事を持った人など、天草に必要な人材に来ていただくという考え方が必要である。

委員：長島町ビジョンは、5年ごとの人口推計が記載されており、施策を実施することで何名人口がふえるというように、事細かくつくられている。市の資料も非常に分析されてはいるが、市民に公表される場合は見やすく、そして出産祝い金など喜ばれるような施策も入れた方がよい。

委員：若者の地元定着を図るということで、この前新聞にも載っていたが、若い女性で24歳までに結婚した方は、子どもの数が2人を超える。しかし、25歳～29歳までに結婚した方は1.5人ぐらいという記事があった。一番心配していることは、高校を卒業した時に進学、就職で天草市を出ていく数が多い。地元への就職支援として、市役所や消防署に高卒、大卒の地元採用枠を設けることをお願いしたい。

委員：天草市は水産業が一番、稼ぐ力が大きい。そういう中で、P13の水産物の漁獲量、海面養殖業の生産量とも、現状値と5年後の目標値が同じになっている。ブランド化して、売り出していくということだが、産業別人口で漁業に携わる若い人がいないことを加味されて、同じ数値に設定されているのか。あるいは、生産は限界であるという認識で設定されているのか。その辺が、少し疑問に感じた。

委員：KPI指標については、指標名及び目標数値については担当部署と再度協議していきたい。雇用の場をつくるという意味で、この指標自体が総合戦略に沿っているのか、ひとつにつながるのかということも含め、担当部署と議論させていただきたい。

また、この指標の考え方ですが、総合計画の政策3「水産業の振興」の指標を持ってきている。今後、後継者不足、生産量が落ちていくことは考えられますが、放流事業などの実施や新規に後継者を育成して、人口が減少する中においても現状維持を目標に頑張っていこうということで、同じ数値としている。

委員：これは、戦略になっていない。他の地域と違いがないので、まだ戦略ではない。これからの地方の時代において、住民もどこに住むのか選べる権利もあるわけで、必ず他の地域と比較される。他と何も変らない施策を続けていく地域は、必ず沈んでいく。戦略は、シンプルで分かりやすく、メリハリがきいているものでなければならない。商売において、中途半端はゼロで

ある。どれか一つ突き抜けないと、儲かる商売にはならない。

なぜ、天草には多くの観光客が来て、移住が増えているか。それは、天草が持っている自然の豊かさという環境が大きい。その環境を生かす戦略を、きちんと立てれば伸びる地域である。戦略の中では、どの産業に力を入れるのかをはっきり書いて、それに合わせた施策を戦略の中に組み入れる。それ以外のものは、普通の行政の中でやっていただければよい。何をメインにして、他のものは戦略としては選ばないという決断が必要ではないか。

委員：毎年、天草の高校へ新卒者の募集をかけるが、職安などからマッチングの斡旋支援等がない。また、市外の専門学校などへ募集をかけ、集めることは、1企業としては無理がある。できれば、どこか窓口があり、天草でマッチングの場を提供していただければ。

委員：ただ今の件については、P9の次世代を担う人材の地元への就職支援で、新規高卒者管内就職率を重要業績評価指標に設定している。その中の具体的な事業に、中小企業合同説明会・就職相談会開催事業（H27：26事業所・130名来場（うち高校生35名・大学生7名））があるが、商工会議所や商工会が年1回、高校生などを対象として、また熊本市内の大学（尚綱大学）では天草出身のメール登録者に周知していただいたことから、大学卒業予定者の来場もあり、島内企業とのマッチングの場として開催されている。平成28年度からは、市も連携して予算計上し、年2回に回数を増やすので、ご活用いただきたい。

委員：看護師が不足しているということで、今年は医師会主催で市が補助金を出して、合同就職説明会を市外で開いた。医療も介護も、地元には募集をかけているが、ほとんど市外に出て募集をかけておられない。やはり、新卒者を、養成校に募集をかけていく必要があるのではないか。そこに、要望があれば市もできることを協力していく。生産年齢人口が減っていく中、市外への募集も続けていくことで、その先生方とのつながりをつくっていく必要もあると思う。

会長：戦略的には、全体としてこれがあるという段階であり、その中でこれが目玉であり、天草市はここで選ばれたいというインパクトのある形で出していただきたい。特に、ここを推していきますよというものを、事務局でもご検討いただいて次回会議には出していただきたい。委員の皆さんも、戦略の案の段階で見ていただいた上で、ここが目玉なんじゃないかということを検討していただくことを宿題とさせていただきます。

◆基本目標2：天草への新しいひとの流れをつくる

事務局：基本目標2について、変更点やKPI指標等について説明。

委員：奨学金について、医師や看護師の保育や介護を学んでいる学生にも、対象を広げてほしい。

◆基本目標3：若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

事務局：基本目標3について、変更点やKPI指標等について説明。

委員：総合戦略の全体像案の中の人口を増やす面で出生数だけではなく、人の流れをつくることも大事で「天草が子育てしやすい地域」だというのは、発信すべきだと思う。

例えば、子育てしやすい地域だと感じる割合は5割を超えているが、理由は何か。環境、自然なのか、それとも子育て支援制度なのか見えてきていない。そこからつながる若い世代への結婚支援等について、20代の早いうちに第1子を産むと第2子、第3子へとつながる可能性が高い。若いうちから、結婚・出産・子育て、そして働くことへのビジョンを持てるように、学生のころライフプランを考える政策が天草には必要ではないか。

子育て支援政策は、天草では十分にやっているが、もっと民間団体等と連携をとって事業展開していくことが必要である。実業家の方たちも子どもを宝として見てほしいし、子育て支援等の活動をしている人たちを応援しようという目線が、戦略の中に出てきてほしいと感じた。

委員：先ほどの子育てしやすいと感じる市民の割合の件ですが、平成25年10月に子ども子育て支援事業計画の策定にあたってのアンケートを取っております。就学前の保護者を対象としたもので、1,395の回答がありました。その中で、どちらかといえば子育てしやすいと感じるが53.7%、子育てしやすいと感じるが15.2%で、あわせると68.9%となり高い数値である。子育て世代へ施策を打っていかないと、この指標の数値を上げることはできない。民間団体等とも連携を図りながら、一緒になって子育て支援に取り組んでいきたい。また、市では福祉基金の助成制度も設けており、その財源を使ってやれる部分もあるので、是非、ご活用いただきたい。

委員：P23までの具体的な事業は、実際にされている事業だけを書かれているのであれば、変わらないと思う。後、5年後とかに事業は追加されていくのか。

事務局：現在、各部署において、事業の精査をしているが、特定不妊治療助成事業などは天草市独自の事業として今年度から新規事業として、総合戦略に載せて始めたものである。総合戦略も毎年、事業効果を検証しながら見直しをし、修正をかけながら平成31年度まで取り組む計画である。

委員：社協では、子育て支援のファミリーサポートセンター事業を、市から受託しており、1時間の利用が600円で、市補助が300円あり、利用者が300円を負担し、協力会員さんに子どもを預け、そのマッチングを社協が行っている。利用者は登録制であるが、ひとり親家庭が本当に多い。その中で、心配事の相談も受けるが、今年から生活困窮者の相談支援事業の相談員2名を配置している。ひとり親家庭だけでなく、生活困窮者の支援も行っており、ハローワークへも一緒に出向き、企業との連絡調整も行っている。ひとり親家庭は、どのくらいあるのか。

委員：(ひとり親家庭の数について説明) 傾向として、世帯数は減ってきている。

	H26	H24	H22
●母子家庭	662世帯	691世帯	721世帯
●父子家庭	90世帯	120世帯	113世帯

委員：子育てに関して、市には保育料も国基準の63%から58%に軽減してもらい、ありがとうございます。特に、お願いしたいのは、保育料は住民税で決定しているが、低・中所得者に重点的に軽減していただきたい。今、全国的には、第2子、3子の保育料を無料にしようという動きが広まってきている。将来的には、第2子、3子の保育料の軽減についても考えていただきたい。

保護者から要望が多いのは、市内に広い駐車場を完備し、安全できれいなトイレのある公園が少ない。子どもたちが安心して遊べる公園整備を、市に要望してほしいという相談がたくさんあるので、市にお願いしたい。

保育士の職場改善では、保育士がなぜ長く続かないのかというのは、給料が安いことが一番の原因だと言われている。例えば、保育士が子どもを何人担当できるかという人数を緩和していただきたい。給料の面だけではなく、業務軽減にもつながるので、市で考えてほしい。

子育ての相談の面において、市内にはたくさん子育て支援センターは設置されているが、地域によっては不足しているところもあるので、拡充をお願いしたい。

委員：P23 の子ども・子育ての支援体制等の整備のKPI指標で、子育て講座・講演会等の参加者数でどのような評価をするのか。また、子育て支援サービス等が利用しやすいと感じる市民の割合でも、対象は今の子育て当事者なのか。そして、子育て安心サポート事業だが、市の補助事業で「子育てネットワーク わ・わ・わ」が実施している事業であって、支援体制等の整備をあげられるのであれば、協力して行うというような目線にならないか。

事務局：KPI指標の講座・講演会等の参加者数については、家庭等における子育て力の向上のための支援充実であり、現在の参加者数の12,846人を増やすことによって、子どもたちの健やかな発達を支援することが必要ということで、保護者に対する講座等を開催し、その参加者数しか数値が出せないため、そのようになっている。

また、子育てサービスの効果があるかどうかは、実際は分からないため、総合計画において指標を量るための施政に関するアンケートで、その指標をとっている。子育て当事者以外にもアンケートを出しているが、成果指標としてはこれしかなかった。

そして、各種団体との協力については、文中に「市内の連携だけでなく、NPOや市民活動団体との協働による支援体制を確立し」としているが、もっと適切な表記がいいということあれば、事務局までお申し付けいただきたい。

◆基本目標4：市民が誇りを持ち安心して暮らせる地域をつくる

事務局：基本目標4について、変更点やKPI指標等について説明。

会長：「ひと」と「しごと」の好循環をつくるのが、地方創生の大きな狙いだが、それを支える「まち」の姿の部分である。どこまで含めるかは、難しいところであるが、ポイントとして、ここは言うべきではないかというところを、明確化していければと思う。

最後の条件不利地域は、何を言っているのかわからない部分もあるので、いくつかフォーカスした答えが必要である。

委員：P28の市民の生活交通手段の確保等に具体的な事業として①、②の事業があるが、市内には交通空白地域がある。高齢者社会の中で、買い物難民という言葉がある。こういったことを、バス会社とコンサルに任せるのではなく、市として様々な住民ニーズに応えていくために、いろんな場面を想定して取り組んでいただきたい。

それから、天草エアラインの利用促進事業だが、来年の2月に新機体になるが、もっと利用促進事業をやっていかないといけない。民間は一生懸命やっているが、行政は後からやっ

てくる感じで、積極的に進めてほしい。

委員：小・中・高校を通じて、天草の愛する心を育むために、天草の歴史・伝統とかを教える時間を組み込んでいただければ、ありがたい。

議題（４）その他

会長：では、その他ですが。今後の予定について、事務局からお願いします。

①パブリック・コメントについて

事務局：パブリック・コメントについて、予定として12月から1月にかけて実施する。実施前には、今日の意見を反映した資料をお送りするので、内容を確認していただきたい。

②次回以降の開催日について

事務局：次回は、予定通り平成28年1月20日に本日と同会場のポルトで開催する。

また、パブリック・コメントの意見等についても対応する必要があるので、第8回の会議を2月17日に同じくポルトで開催させていただきたい。

会長：では、今日の会議は以上で終了します。皆様、ありがとうございました。

(以上)

あまくさ創生実践会議 委員出欠表

H27.7.22 現在(順不同)

		所属	役職	氏名	備考
1	会長	慶應義塾大学	教授	タムムラ マサトシ 玉村 雅敏	
2	副会長	天草市まちづくり協議会連絡会	会長	ナカガワ タケハル 中川 竹治	
3	委員	本渡五和農業協同組合	代表理事常務	ユ スキ アキオ 湯貫 秋男	
4	委員	あまくさ農業協同組合 指導販売部	果樹園芸課長	ゴトウ ノブユキ 五嶋 伸幸	欠席
5	委員	天草地域森林組合	代表理事専務	カワチ コウイチ 河内 公一	
6	委員	天草漁業協同組合	総務課長	ウエダ コウイチロウ 植田 弘一郎	欠席
7	委員	(一社)天草宝島観光協会	事務局長	イワミ リュウジロウ 岩見 龍二郎	
8	委員	天草市起業創業・中小企業支援センター	センター長	ノマ ヒデキ 野間 英樹	
9	委員	天草経済開発同友会	委員長	ヤマモト ヒロシ 山本 博	
10	委員	(一社)天草本渡青年会議所	副理事長	カミ タケン 上 剛司	
11	委員	牛深青年会議所	理事長	オカベ ノブヒロ 岡部 伸大	
12	委員	本渡商工会議所	事務局長	ホリタ ショウジ 堀田 照二	
13	委員	牛深商工会議所	常議員	エザキ タカシ 江崎 孝	
14	委員	天草市商工会	経営指導員	マツモト トシユキ 松本 利幸	欠席
15	委員	天草市保育所連盟	会長	スサキ トヨヒロ 洲崎 豊裕	
16	委員	天草市県立学校長会	代表	マエダ ミチハル 前田 三千治	
17	委員	連合熊本天草宇城上益城 地域協議会天草地区連絡会	幹事	ミヤザキ エイジ 宮崎 英治	
18	委員	天草市社会福祉協議会	本渡支所長	ハスイケ ミチヨ 蓮池 美智代	
19	委員	NPO法人子育てネットワークわ・わ・わ	理事長	サワダ フクミ 澤田 福美	
20	委員	天草お産路	代表	ナカバヤシ マドカ 中林 円	
21	委員	肥後銀行 天草支店	支店長	ヨコセ ヒデオ 横瀬 英夫	
22	委員	熊本銀行 天草支店	支店長	イチグチ カツヤ 一口 勝也	
23	委員	天草信用金庫 融資部	理事	ワタナベ カズナリ 渡邊 一成	
24	委員	天草広域本部	総務部長	ハジメ キミオ 一 喜美男	
25	委員	天草市地域振興部地域政策課	課長	スガワラ ヒロアキ 菅原 弘晃	
26	委員	天草市健康福祉部健康福祉政策課	課長	イセザキ ユウキ 伊勢崎 裕樹	
27	委員	天草市経済部産業政策課	課長	オオタ ヤスト 大田 安人	
28	委員	天草市観光文化部観光振興課	課長	ワタナベ ヒデト 渡邊 英人	
29	委員	天草市教育部教育総務課	課長	ヤマナ スナオ 山名 直	
		天草市総合政策部	部長	カネコ マサヒデ 金子 正秀	
	事務局	天草市総合政策部政策企画課	課長	シオサキ トシヒコ 塩先 敏彦	
	事務局	天草市総合政策部政策企画課	係長	ヒラヤマ タカヒロ 平山 高広	
	事務局	天草市総合政策部政策企画課	参事	カドグチ トオル 門口 徹	
	事務局	天草市総合政策部政策企画課	主査	ムカエダ マサタカ 向田 正隆	
	事務局	天草市総合政策部政策企画課	主査	ナカガワ ジュンコ 中川 淳子	